

今日は2:17-3:5から「主が来られる日」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

## 1. 主が来られる日 2:17-3:1

2:17は、マラキ書の特徴である神と民との問答です。まず神が言われます。「17あなたがたは、自分のことばで主を疲れさせた。」イスラエルの民を愛する神は、民の言葉に心を留められます。しかし、民の不信仰の言葉は、神を疲れさせました。その神の言葉に対する民の質問です。「あなたがたは言う。『どのようにして、私たちが疲れさせたのか。』」彼らは自分たちの言葉が、神を疲れさせる不信仰な言葉であることに全く気付いていませんでした。そこで神は民の質問に答えられます。「それは、あなたがたが『悪を行う者もみな主の目にならなっている。主は彼らを喜ばれる。いったい、さばきの神はどこにいるのか』と言うことによつてだ。」

民は、悪を行う者が何のさばきも受けず栄えていることを見ていました。そして、もし善悪を正しくさばかれる神がいるのなら、そのようなさばきの神はどこにいるのかと言っていたのです。そして実際はさばきの神はおらず、善悪に無関心な神しかいない。だから「悪を行う者もみな主の目にならなっている。主は彼らを喜ばれる」と言って、神をあざけりました。

聖書の他の箇所にも、悪者が栄える矛盾を語る箇所があります。しかし、その矛盾が語られても、最後には神は正しいさばきをされると告白されます。例えば、詩篇73篇で作者のアサフはこう訴えます。3-4,12「それは私が悪しき者が栄えるのを見て、誇り高ぶる者をねたんだからだ。実に彼らの死には苦痛がなく、彼らのからだは肥えている。…見よ。これが悪しき者。彼らはいつまでも安らかで、富を増している。」しかしアサフは神の前に出た時、彼らの最後を悟つてこう言いました。19「ああ、彼らは瞬く間に滅ぼされ、突然の恐怖で滅ぼし尽くされます。」しかし、マラキの時代の人たちは、アサフのように最後には神のさばきがあることを悟らなかつたのです。そこで「いったい、さばきの神はどこにいるのか」と言って、神への不信仰な言葉を言い続けていました。

それに対して、神は民の不信仰な問いに誠実に答えられました。それが3:1-5です。神は、主の来臨、やがて主ご自身が来られることが、彼らの問いに対する答えだと言われます。この主の来臨は、主イエスの初臨、すなわち2000年前に来られたことと、主イエスの再臨、やがて来られることの両方の預言です。

1a「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。」これは救い主が来られる前に、主の道備えをするバプテスマのヨハネの預言です。マタイ11:10でイエスはバプテスマのヨハネを指して、マラキのみことばを引用して言われました。「この人こそ『見よ、わたしはわたしの使いをあなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。』」バプテスマのヨハネは旧約の預言どおり、イエスの前に現れ、人々に悔い改めを説いて、主イエスの道備えをしました。そして、その後主イエスが来られました。

1b「あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。一万軍の主は言われる。」来週からアドベント・待降節です。アドベントはラテン語で「来る」という意味があります。アドベントはまず、2000年前にすでに救い主が来られたことを覚え、主イエスの降誕を祝うクリスマスを待ち望む期間です。さらにアドベントは、再び来られる主イエスを待ち望む期間でもあります。マラキも「見よ、主が来る」と言いました。「あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。」イエスは公生涯の最初と最後に神殿に来られました。その時に行われたのが宮きよめです。イエスの時代、両替人は多額の手数料を得ていました。またいけにえの動物を売る店は大祭司の家族が所有し、莫大な利益を得ていました。彼らは祈りの家を強盗の巣にしていました。そのような時にイエスは突然神殿に来て、神殿をきよめました。

また「あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る」とあります。イエスは新しい契約を成し遂げるためにこの世に来られました。そして、十字架の死によって、イエスを信じる者はすべての罪が赦されて救われ、神の民とされるという新しい契約を完成してくださったのです。

私たちは旧約聖書の預言どおり、主の道備えをしたバプテスマのヨハネとその後に来られた主イエスを通して、聖書の預言の確かさを知っています。それゆえ、主イエスが再び来られるという預言も確かに将来成就することを信じています。来週からのアドベントの期間、主がすでに来られたことと主が再び来られることを覚えて過ごしましょう。

## 2. 救い主が来られる日 3:2-4

「2aだれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。」2aは主イエスの再臨の時に起こる神のさばきについてです。黙示録6:17にはこうあります。「神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。」神の子羊イエスが再臨される時、神のさばきが行われます。そのさばきに耐えることができる人、すなわち、神の前に自分の正しさを証明し、さばきを免れることができる人はだれもいません。この神のさばきについては5節につながります。一方、2b-4節はイエスの初臨によって成し遂げられた救いについての預言です。

2b-3a「2bまことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。3aこの方は、銀を精錬する者、きよめ

る者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粋にする。」精錬する者の火は、金銀から不純物を取り除き、純金や純銀を作ります。また布をさらす者の灰汁は、布についた汚れを取り除きました。「この方は、銀を精錬する者、きよめる者として座に着き」とあります。きよめる者として天の御座に着かれたこの方とは、救い主イエスのことです。よみがえられ、天に上られたイエスは、十字架で流されたご自分の血によって、信じる者のすべての罪をきよめ、赦してください。「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」とあるとおりです。Ⅰヨハネ 1:7

また「レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粋にする」とあります。使徒 6:7には「また、祭司たちが大勢、次々を信仰に入った」とあります。エルサレムで福音が伝えられると、大勢のレビの子である祭司たちが、主イエスを信じたのです。彼らも主イエスの尊い血潮によって、罪をきよめられ、主イエスの弟子となりました。またクリスチャンはみな神に仕える祭司であることを覚えるときに、このレビの子らとは、すべてのクリスチャンのことでもあります。私たちがみな、主イエスの血潮によって罪をきよめられ、神に仕える祭司とされたのです。

3b-4「3b 彼らは主にとって、義によるささげ物を献げる者となる。4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々のように、ずっと以前の年々のように主を喜ばせる。」クリスチャンにとって、義によるささげ物とは、動物のいけにえではありません。そうではなく、私たち自身です。「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい」とあるとおりです。キリストによって義と認められた私たち自身を、神の御用のためにお献げすることを、神は喜んで下さいます。神への献身とは、まず毎週神を礼拝する礼拝者となることから始まります。そして、週日の日々の中で、神の栄光のためにそれぞれ遣わされている所で神に自分をお献げします。主イエスは、私たちを救うためにご自分をささげられました。そのことを覚えて、私たちも主に自分をお献げし、神の栄光のために生きる者となりましょう。

### 3. さばき主が来られる日 3:5

5節は2aに続く、再臨の主によるさばきについての預言です。そしてこの預言が2:17の「いったい、さばきの神はどこにいるのか」という民の問いに対する直接的な答えです。5「わたしは、さばきのためにあなたがたのところに近づく。わたしは、ためらわずに証人となって敵対する。呪術を行う者、姦淫をする者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人を虐げてやめやみなしごを苦しめる者、寄留者を押しつけてわたしを恐れない者に。一万軍の主は言われる—」

イエスの初臨は、私たちをさばくためではなく、私たちを救うために来られました。では神のさばきはいつ行われるのでしょうか。それはイエスの再臨の時です。イエスが再び来られる時、最後の審判が行われるのです。5節に挙げられている人たちはみな律法に違反した人たちです。神は悪を行う者を、最終的にさばかれます。この時、さばきの神がおられることをすべての人が認めることとなります。だからこそ私たちは「さばきの神がおられる」ことを知って、神を恐れ、心を開いて、主イエスの救いを受け入れることが大切なのです。

聖書は言います。「義人はいない。一人もない。」「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません」ローマ 3:10, 23 私たちはみな、神に背を向けて自分勝手に生きる罪人です。どんなに良い人と思われている人にも、心の中にはドロドロした罪の思いがあるのです。それがあつた時に外に出て来て、悪い言葉や悪い行いとなります。ですから、だれもさばきの神の前で、自分の正しさを主張できる人はおらず、神のさばきを免れることはできません。だからこそ、神は私たちを救うために、救い主イエスを遣わして下さったのです。

ヨハネ 3:17にはこうあります。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって救われるためである。」イエスが再臨される時までは「今は恵みの時、今は救いの日です」とあるように、神の恵みの救いの期間です。私たちは今、恵みの救いの時に生きているのです。この神の恵みの時を、無駄にすることなく、神が遣わされた御子イエスを救い主として信じましょう。そうすれば、神のさばきの時には、イエスがあなたの身代わりとなって神のさばきを既に受けているので、あなたを新天新地に迎えると言ってくださいなのです。

一方で、主イエスが再び来られる時、クリスチャンにとっては、救われた後の人生を神が評価し、報いを与えるために、一人ひとりが主の前に出る時です。Ⅱコリント 5:10「私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」だからこそ、私たちは神からゆだねられているいのちも賜物も能力も、神の栄光のために用いて生きることが大切なのです。そして、やがて主の前に立った時に、「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びを共に喜んでくれ」と言っていたくなるようになります。

2000年前に主は私たちを救うために来られました。そしてやがて主は地をさばくために来られます。そのことを覚え、今こそ主イエスを信じて神の救いを受けましょう。そして自分を神にささげて、神の栄光のために忠実に生きましょう。そして再び来られる主を待ち望みましょう。